

教科の面白さを発信！！

全校生徒を対象にオンラインで、毎週金曜の朝自習の時間、各教科担当がその教科の面白さを伝える試みを行っています。

「なぜその教科が存在するのか」

校長 藤田義雄

「面白い科学」と「科学の面白さ」。私たちはふだん特に意識することなく、この言い方を使っていると思います。

ところで、「〇〇な△△」と「△△の〇〇さ」の違いは何でしょうか。

この違いに気付くためには、どちらが先にあるのかを考えることが大切です。例えば、「面白い科学」と「科学の面白さ」であれば、そもそも科学は面白いものであり、人類の生活に大きく役立ってきました。つまり「面白い科学」が先にあり、だから「理科」という教科が存在するのです。そして、理科の先生は「理科（科学）の面白さ」を生徒に伝えたいと考え、理科の教師になりました。

しかし、私は中学生のとき、「理科の面白さ」に気が付くことができませんでした。今思うと、本当にもったいないことをしたなと感じています。でも、その分「社会科の面白さ」を生徒に伝えたいと思い、教師になりました。

皆さんには、それぞれの「教科の面白さやすばらしさ」を是非感じ取ってほしいと願っています。私たちも皆さんに、学ぶことの面白さや楽しさを伝えていきたいと思っています。

「学校日より8月抜粋」

N教諭（理科）

「理科の魅力の一つは、見えないものを見えるようにすること」と説明していました。

そして、見えない空気を見えるようにするために、空気砲の実験をしたり、ペットボトルの中の空気が溶液に反応し色を変えたりしていました。



S教諭（国語）

「人は言葉を使って、知識を得たり、考えを深め表現したりするわけですが、国語はその基盤となる教科である。」と説明していました。そして、生徒が創った詩や中高生新聞を活用して、その魅力や読書の楽しみについて伝えました。

